

全高書研会報

全日本高等学校
書道教育研究会

事務局

埼玉県立志木高等学校
〒353-0001

埼玉県志木市上宗岡1-1-1
山下 剛

TEL 048-473-8111

FAX 048-470-1061

出版部

三重県立亀山高等学校
〒519-0116

三重県亀山市本町1-10-1
竹嶋 秀聡

TEL 0595-83-4560

FAX 0595-83-4567

印刷

光出版印刷株式会社

〒515-0044

三重県松阪市久保町1885-1

TEL 0598-29-1234

FAX 0598-29-0265



第四十二回全日本高等学校書道教育研究会 熊本大会を振り返って

熊本大会長 那須 高久

(熊本県立第二高等学校長)

昨年の十一月九日(木)、十日(金)の二日間にわたり、第四十二回全日本高等学校書道教育研究会を、全国から二百四十人を超える先生方の参加を得て熊本市で開催いたしました。

大会のテーマを「地域とともに生徒を育む書道教育〜火の国から新たな創造を求めて〜」と設定しました。書道教育を取り巻く環境は年々変化しています。芸術教育の必要性は多くの教育関係者が認めるところですが、少子化の影響による学校の統廃合は本県も例外ではなく、芸術三科からの選択ができない学校も増え、教諭を配置されない学校では研修の機会も限られる中、講師や非常

勤講師の先生方が知恵を絞って授業を行ってきました。そのような中で、指導法を工夫し書道を学ぶ楽しさを生徒に伝え、また地域と連携しながら書道の普及に努める先生方の等身大の実践を、テーマに添って発信した大会でした。

授業研究は、担当した本県職員にとって大きな収穫になりました。また分科会には、兵庫県、香川県、宮崎県からも発表者として参加して頂き、新たな視点に触れることのできた貴重な機会になりました。誌上発表に御協力頂いた全国の先生方からも、芸術科書道をとおして身に付けさせたい能力や育みたい感性に視点

をおいた具体的な実践を寄稿して頂きました。紙面をお借りして心からお礼申し上げます。それぞれの発表や協議から得られたものを、全国の教育現場で活用して頂くことが開催県の願いです。

平成四年にこの大会を熊本で開催しました。大会のテーマは「今時代に生きる書道教育とは」でした。今回のサブテーマである「火の国から新たな創造を求めて」につながる、時代を反映した研究大会が、二十五年の時を経て再び熊本の地で開催されたことを意義深く感じます。今年大会の成果が、全国から参加された先生方の今後の教育実践に生かされ、

その指導に触れた高校生が次代の書道芸術を担う人材として成長してくれることを願ってやみません。

一昨年の熊本地震からやがて二年が過ぎようとしています。熊本市国際交流会館から見える熊本城は天守閣が工事用シートで覆われ、石垣が落ちたままのところも各所にあります。元の姿に戻るには長い時間が必要ですが、全国から多くの先生方に訪れて頂き、復興の途上にある熊本に元氣と勇気を頂きました。大会の中で講評を頂いた文部科学省加藤泰弘教科調査官、全高書研佐川会長をはじめ本部役員の皆様方、また協賛金、義援金という形で御支援を頂いた全国の皆様方の支えによって、本大会の開催に至ったと実感しております。心から感謝申し上げます。書道教育に携わる多くの先生方と、この大会をとおして交流ができたことが一番の成果であったことを御報告し、結びといたします。

熊本大会

第四十二回全日本高等学校書道教育研究会熊本大会が、平成二十九年十一月九日(木)・十日(金)の二日間にわたり開催されました。

会場

熊本市国際交流会館

総会

九日(木)

十時～十一時

開会式

九日(木)

十一時十分～十二時

授業研究・研究協議

九日(木)

十三時十分～十五時三十分

情報交換会

九日(木)

十五時四十五分～十七時

分科会

十日(金)

九時～十二時

全体会・閉会式

十日(金)

十二時十分～十二時

授業研究・研究協議

A 「篆刻の学習～余白を見つめる～」

熊本県立人吉高等学校
教諭 熊川 南

この度の、全高書研熊本大会研究授業において、全国から多くの先生方に、御参加並びに、研究協議における貴重な御意見を頂き、誠にありがとうございました。

今回の篆刻の授業研究は、制作のテーマを「余白を見つめる」と設定し、主体的・対話的で深い学びの実践、鑑賞力の向上を目標としました。

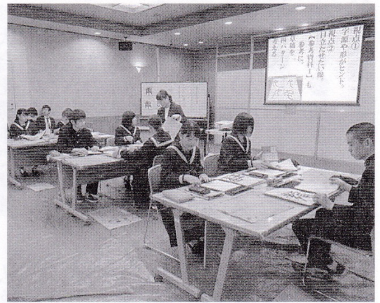
「余白を変化させた、草稿を考える時間」を見ていただきましたが、生徒の鑑賞の視野が広がるよう、授業の導入に日本画と西洋画の比較を行いました。また、余白に見える景色を想像させることで、余白の役割や効果についても生徒の思考が深まるように工夫を行いました。授業実践の過程において、普段以上に生徒の意見を引き出し、積極的に鑑賞を楽しむ姿を見ることができました。

草稿制作においては、配置や文字形を工夫することで余白を変化させました。生徒同士の意見交換により、自身の

草稿を完成させていく様子や生徒の作品が変容していく過程が確認でき、大変喜ばしいことでした。

研究協議においては、先生方から貴重な御意見をいただき、多くの課題を発見する機会を得ました。篆書のデフォルメの許容、篆刻の魅力、書道の余白の捉え方等、今後の教材研究を深める観点を再確認しました。また、対話的学びの環境作りについても、視野を広げて研究していきたいと思えます。さらに、各学校での実践例についても御教示いただき、グループワークの方法、段階に応じた発問、他教科との関連や実践例も積極的に取り入れ、生徒主体の授業への展開を更に深めていきたいと思えます。

この篆刻の単元終了後、生徒から、「鑑賞することにも楽しみをみつけた」、「余白が文字を引き立たせている」、「色も模様もないスペースを美しくと思った」、「読み取る人によって、その場所(余白)がどのような意味をもっているのか、想像ができるところがよい」等、余白に思いを馳せながら鑑賞を楽しむ姿に繋ぐことができ、また、「日本文化をもっと知りたい」、「心にも余裕を持って生活したい」等の意見もあり、生徒が日本



文化の魅力や実生活における心情にまで思いを巡らせるまでに至ったことに、今回の授業研究の単元設定の成果を実感することができました。

拙い授業ではありましたがこのような貴重な機会をいただき、多くの先生方と出会い、御指導いただいたことは今後の大きな財産となりました。今後、生徒が書道を通して、人生を少しでも豊かにできるよう書道教育に対し研鑽を続けて参りたいと思えます。

B 専門科目漢字の書「創作一字書の学習」深い学びにつなげる鑑賞学習～書の美の視点を考える～

熊本県立御船高等学校
教諭 古閑 雄介

この度の全高書研熊本大会では、研究授業並びに研究協

硬筆・毛筆書写技能検定

入試・就職に有利！履歴書にも書ける資格！

文部科学省後援

●試験日

- ◎平成30年度第1回 6月17日(日)
- ◎平成30年度第2回 11月11日(日)
- ◎平成30年度第3回 31年1月27日(日)

●試験地

- ◎全国主要都市。10名で試験会場設置可

●受験料

●受験者必読書刊行(申込みは検定協会へ)

- 硬筆書写技能検定の手びきと問題集 (定価1,550円・別途送料)4月上旬発刊予定
- 毛筆書写技能検定の手びきと問題集 (定価1,650円・別途送料)4月上旬発刊予定

硬筆書写技能検定 3級のドリル

(定価600円・別途送料)

硬筆書写技能検定 2級のドリル

(定価800円・別途送料)

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級
硬筆	5,500円	4,500円	3,100円	3,000円	2,100円	1,400円	1,100円	900円
毛筆	6,000円	5,000円	3,600円	3,400円	2,600円	1,600円	1,300円	1,000円

後援：文部科学省・全国都道府県教育委員会

一般財団法人

日本書写技能検定協会

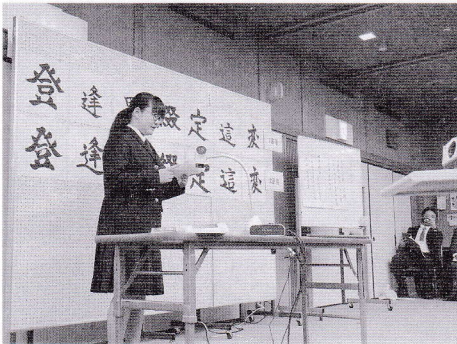
〒170-0005

東京都豊島区南大塚3-41-3

TEL03(3988)3581(代)

FAX03(3988)3528

http://www.nihon-shosha.or.jp



「自らの考えをもとに語る」「相互に繋がったと考えます。」生徒相互の鑑賞においては、創造力を働かせ、より深く個人的な言葉を生み出す学習活動に繋がったと考えます。

「自らの考えをもとに語る」三つの主題から、漢字一字を選定しました。最初は、「夢」「輝」などの言葉を選び、その後何度も推敲を重ね、この学びの過程が、言葉に想いを重ね、創造力を働かせ、より深く個人的な言葉を生み出す学習活動に繋がったと考えます。

議において様々な視点から御指導、御助言を頂き、誠にありがとうございました。研究協議の目標として、鑑賞学習の充実を念頭に、生徒が実感的に制作の過程や作品の変容を味わうことのできる授業の展開を設定しました。

本単元は、これまで学習した楷書の古典臨書をもとに創作活動へ展開する内容です。生徒達は、言葉の選定において、「郷土を思う」「日々を見つめる」「未来を考える」の三つの主題から、漢字一字を選定しました。最初は、「夢」「輝」などの言葉を選び、その後何度も推敲を重ね、この学びの過程が、言葉に想いを重ね、創造力を働かせ、より深く個人的な言葉を生み出す学習活動に繋がったと考えます。

「形態美」「線美」「墨色美」の四つの視点で捉え、各々の領域で分析的な活動を行い、言語活動を展開しました。生徒が論理的思考力を高めると共に、個性的・創造的な表現を行うことで感性を育み、深い学びへ繋がることを意識しました。生徒たちはほどよい緊張感を持ち、活発に授業に参加していました。私の方が助けられたというのが正直な気持ちです。

研究協議のみならず、大会期間中多くの先生方から御助言、御感想をいただきました。全体会では、文部科学省加藤調査官から「四つの書の美の視点は静的な視点(作品を見て捉える視点)になりがちなため、動的な視点(用筆・運筆などの書字過程)を加えることで、時間性を意識したより深い表現と鑑賞の学習に繋

がる。」との御教示をいただきました。先生方から頂いた御助言の全てが、私にとりまして今後一層励んでいくための糧となりました。改めて深く感謝申し上げます。

最後になりますが、本発表の機会を得たことは、教育の方向性と授業改善の視点を再認識することができ、また、書道教育の充実が生徒の「生きる力の育成」へ繋がっていることに大きな可能性を感じることができました。これからも芸術教育の発展に努力し、研究と修養に励んで行きたいと考えています。ありがとうございました。

分科会

A 生徒の主体的学びを促す指導の工夫と実践

①「教材の共有化〜凡用性を意識した教材研究〜」

熊本県立湧心館高等学校
教諭 中島 好治

今回の発表では、教材の共有化及びICT活用でのスキル向上、評価指標としてのルーブリック活用で研究を進めて



教材の共有化では、熊本県の実情を把握すべく、二度アンケートを実施し、県下でのコンピュータによるICT活用において、授業時の定着が厳しい現状から、パワーポイントの活用を絞りました。

パワーポイントは多くの学校において使用が可能であり、講師の先生でも、ワークシートとリンクさせることでその用途幅も広がると考えたからです。アンケートの結果、作品の特徴及び作者や時代背景、筆法を考えさせるようなパワーポイント教材と、理解の深まりが確認できるワークシートが必要という意見を多数いただきました。それを受け、ICT活用と教材の共有化を図ることで生徒の理解の深化、作成・使用の簡易化と負担軽減への効果が浮かんできました。以上の観点から、県内の教員から提供された自

書道・国語専修書道教育コース

幼・小・中・高校(書道) 現任教員採用合格

高等学校(書道・国語)と共に、幼稚園・小学校・中学校・学校図書館司書の教員免許状が取得できる。

平成28年度教職就職率含む **99%** 資格を取得して地元就職

『改組 新第3回(平成28年度)日展』に 岐阜女子大学生が、在学中に2年連続入選

平成28年度卒業生/山川 結加さん [雅号: 秋蓮]
「明清古詩二首」行草書体 30cm×360cmの巻子 (※一部抜粋)

岐阜女子大学・大学院
〒501-2592 岐阜市太郎丸 80 番地

作副教材を共有することを進めてきました。しかし、期間も限られ、共有化及びICT活用でのスキル向上までには到達できていない現状での発表となりました。

また、評価において、昨今、大学や小中学校が取り入れているルーブリックを芸術科書道で活用可能か考えました。副教材を活用し、行動目標をルーブリックで示せば、生徒の理解が更に深まるだろうと考え、表記が端的で、評価したい項目を明確にすることを意識して評価表を作成しました。それに、提供された自作副教材で活用頻度が高かったものを改訂し、それを元に、一知



この実践から感じたのは、授業者の授業設計の大切さです。今後は、自己評価の不慣れや自己肯定感の乏しい生徒が、自身の成長を実感できるルーブリックの開発の必要性を強く感じました。しかし、評価項目、評価基準の設定でも、妥当で客観性の高いルーブリックの作成には多くの基礎データが必要であり、その収集と検証が私のこれからの課題と言えます。

最後に、平成二十九年度第四十二回全日本高等学校書道教育研究会熊本大会において、分科会発表の機会をいただき、全国の先生方より多くの御指導いただきましたこと心より感謝申し上げます。

「理解」と「表現活動」並びに「言語活動」に重点を置いてルーブリックを作成しました。

県内の複数校で改訂副教材とルーブリックを使用してもらいましたが、その後の感想として、表現及び鑑賞で、より目標や取組が明確になったこと、また、限られた時間の中での活用にはやはり各学校の実情に応じて、使用者が修正した方が効果的だという感想を得ています。しかし、これも研究が十分とは言えず、研究途上での実践となりました。

この度の全高書研熊本大会において、分科会研究発表B「生徒が主体的に活動し、互いに認め合う書道教育」アクティブ・ラーニングの授業を中心に」という研究テーマのもと、発表をさせていただきました。当日は遠方よりたくさんの方にお越しいただきご意見・ご教授頂けましたことを、この紙面を借りてお礼申し上げます。

今回の研究発表は昨年度まで在籍していましたが、県立日南高等学校での一年間の実践でした。主体的、対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）という言葉が聞かれるようになり久しいですが、宮崎県でも数年前から県の研究大会において、それぞれの学校での主体的・対話的で深い学びの実践を発表し合い、抱えている疑問や悩みを共有し、より深い学びのあり方を模索して参りました。各学校の先生方が実践された内容を自分の中でかみ砕き、思考錯誤する中で行った授業が今回の実

②「生徒が主体的に活動し、互いに認め合う書道教育」アクティブ・ラーニングの授業を中心に」

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
教諭 藤高 祐太郎

①「生徒が主体的に活動し、互いに認め合う書道教育」アクティブ・ラーニングの授業を中心に」という研究テーマのもと、発表をさせていただきました。当日は遠方よりたくさんの方にお越しいただきご意見・ご教授頂けましたことを、この紙面を借りてお礼申し上げます。



生徒が主体的に活動する中で、新しい発見や喜びがあった一方で、反省すべき事も多々ありました。対話的な学習は生徒自身の持つ独特な感性を深めやすい反面、他者に依存してしまう生徒も見られました。また、他者と積極的にコミュニケーションを取ること

実践発表となりました。

次期学習指導要領改訂の方向性として、生徒達が日々の学びを通して、

①何ができるようになるか
②何を学ぶか
③どのように学ぶか

という3本の柱を掲げています。③のどのように学ぶかの柱では主体的・対話的で学びの視点からの学習過程の改善を示しています。芸術科書道がこの対話的で主体的な学びを果たすためには、日々の授業において、それが目的となるのではなく、手段としてより自然に定着していく必要があると考えます。

絶え間ない研究の精華を放つ 豊彩潤沢の高級液体墨

書芸吳竹 天衣無縫 生墨 磨りおろし きらきら光る書道液 金のきらめき

銀のきらめき

株式会社 呉竹
〒630-8670 奈良市南京終町7-576
TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070

Kuretake

先生方のアドバイスで進化している 天然膠で書きやすくて特選群を抜く!!

固形墨から造りました 液墨 液墨 えきずみ 350g

硯と固形墨の 関係に着目し 芯と墨を自在に表現 墨にダメージを 斜硯板 “芯”

墨を科学して表現を広げる

墨づくり200年

株式会社 墨運堂

〒630-8043 奈良市六条1-5-35
Tel:0742-52-0310 Fax:0742-45-6880
mail: info@boku-undo.co.jp
URL: http://www.boku-undo.co.jp/
東京店・福岡(営)

が苦手な生徒に対しての指導をどう行うかなど、今後も考えて実践していかなければならない課題も多い現状です。具体的には鑑賞会や、グループ学習におけるリーダー（リトルティチャー）のあり方も今後実践を通してよりよいものにしていきたいと感じています。

今回の発表で参加された先生方から、暖かいお言葉を数多くいただきました。同じ悩みを抱える先生が多いことも今回の熊本大会で知ることができました。主体的・対話的で深い学びのよりよい授業の方法・あり方を日々の実践を通して、模索し続けていく所存です。

B 「生涯学習につながる書道教育」

① 「書道芸術に親しむ書道を愛好する態度や心の育成」

兵庫県立伊川谷北高等学校
主幹教諭 **小出水 博**

全高書研熊本大会において生涯教育につながる書道教育として「書道芸術に親しむ」の内容で本校での授業実践を発表させていただきました。赴任して十年、芸術類型を設定し、芸術教育を充実させ、



豊かな感性を育むことを特色としている。本校で教壇に立ち、生徒と関わる中で「感性」を豊かにし「情操」を養うことが「人間形成」に最も大切なことだと、改めて感じました。

学習指導要領高等学校芸術科の目標は「芸術の表現・鑑賞を通じて美の理解感得と創造性の育成に努め、情操を純化し生活を豊かにして、円満な人間の形成を旨とするものである。」とあります。また、「芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」と掲げています。

生徒にとって高等学校で履修した書道が将来、「生涯につながる学習」とはどのようなものなのか。試行錯誤しながらの実践発表でした。芸術科目の音楽、美術、書道から書道を選択した生徒が「書道I」の体験から、手書き文字・毛筆文字の魅力や大切

さを実感し、一人でも多く「書道II」「書道III」を継続履修、また、学校設定科目で書に興味を持って欲しいと願い、実用を意識した細字学習、立体の書としてセラミックボードへの作品制作、グラスリッチェン、書道史略年表制作など興味関心を高める教材を取り入れ、今回、制作作品を展示しました。

「部屋に飾る作品」「自慢できる作品」をテーマとして、生活の中に「書」がある空間、町中で見かける「手書き文字」に興味を持つなど文字に触れる機会を増やして欲しいと願っています。

書道とは「文字を書く」行為ではあるが、「言葉」として意味を理解し、どのように表現し、心を込めて人に伝えるかが大切であると思います。授業での作品制作体験は構成面の工夫、表現するための用筆や用具の工夫など、常に「美意識」を持つことが「感性」を高めることに繋がるのではないのでしょうか。

PTA書道講座の講座名は「楽しみま書」です。受講の保護者は毎回楽しく書に親しんでいます。生徒にも高校で体験した書道を将来、どこかで筆を持ち、楽しく「言葉」を表現して欲しいと思います。

十分な内容を発表できませんでしたが、研究協議では「原寸大臨書」「美について」「書道講座」など多くのご意見、ご指導ありがとうございました。発表に参加いただきました多くの先生方に感謝申し上げます。

「全高書研会報」第八十三号にも記しましたが、研究会や研修会は研鑽の場として大切です。私はこれからも日々工夫し、生徒とともに成長したいと思っています。

最後になりましたが、大会運営にあたられました熊本県の先生方、役員の先生方をはじめ、参加いただきました多くの先生方に感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。ありがとうございました。



② 「地域に学ぶ書道教育」開放講座と生涯学習」

熊本県立多良木高等学校
講師 **土肥 裕子**

この度は、全国各地から多くの先生方に大会へ参加していただきありがとうございました。研究発表という貴重な経験の中で、温かい御助言をいただきましたことに対し心から感謝申し上げます。

「よう、遠かところまで来やっただすねえ。だんだんなあ。」（よく、遠いところ（熊本）まで来て下さいましたね。ありがとうございます。）という、人吉球磨地方の方言（球磨弁）から始まった発表でした。

昭和六十三年から続く、地域の方々を対象とした「書道開放講座」の歴史や実践について紹介をしました。

平成二十七年度から、講座の受講生と生徒の作品を交換する計画を立て、作品をおとして初めて受講生と生徒が交流を行いました。その後、生徒や多くの受講生から直接交流をしたいという意見があり、次の年に交流学習を実施しました。

今回は、その時の交流学習について発表しました。地域の言葉「方言（球磨弁）」に着目し、言葉の意味や、使い方を受講生から学びました。地域の言葉に理解を深め、意見



交換しながら作品化し、仕上がった作品の鑑賞を行いました。講座へ参加されている方々と触れあうことで故郷の方言に対する理解を深め、地域に愛され続ける本校独自の取組を通して、郷土愛と母校愛を育むことを目標に実践を重ねました。受講生と生徒の双方から、今回の取組に対して満足したという意見をいただき、歴史を重ねた開放講座の意義を実感しました。

今年度は、一月から講座を実施しますが、希望する生徒は全日程に参加できるように土曜日に開講します。課題は「篆書体」で、書道Ⅱの授業内容と関連させながら、作品交流も実施する予定です。反省点として挙げたICTの活用や事前事後の学習の充実を図り、これまでの取組を活かした内



容にしたいと考えています。発表後のアンケートにも見せていただき、多くの先生からこの取組について、励ましの言葉や貴重な御意見をいただきました。本校は平成三十年度末をもって閉校しますが、芸術科書道という教科を通して、地域と学校をつなぐ交流を最後まで続けていきたいと思っています。今後の目標として、地域の方々や生徒の世代を超えた交流から、次期学習指導要領が求めている「主体的・対話的で深い学び」につながる学習活動を実践し、更なる相乗効果を目指します。

日々手探りの中で悪戦苦闘していますが、この熊本大会の縁を糧にこれからも研鑽を続けて参ります。今後とも御

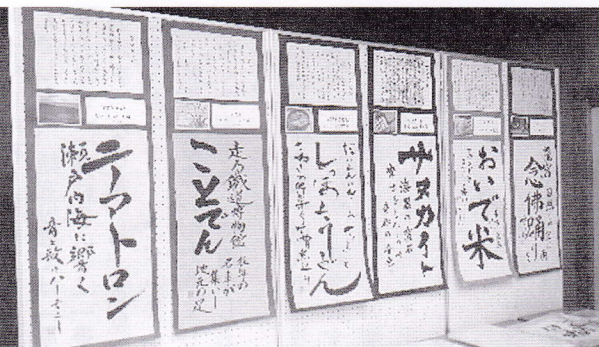
C 地域に根差した書道教育

① 「漢字仮名交じりの書の学習」さめきの逸品を紹介しよう」

香川県立高松商業高等学校
教諭 二宮 靖之

この度、全高書研熊本大会におきまして、分科会発表の機会をいただき、全国の先生方のご意見や取り組みを知る貴重な経験となりましたこと、この紙面をお借りして深く御礼申し上げます。

熊本大会での発表が無事終わり、すぐさまレンタカーを借りて阿蘇山へ。噂では地震によって山肌に複数の亀裂が走ったとか。中学の修学旅行以来でしたが、その雄々しい姿には感慨深いものがありました。もう一泊延長して市内をくまなく散策。県高校書道展は点数も多く力作揃いで、じっくりと時間をかけて見ることができました。展示場では受付の生徒さんたちに震災の話をお聞きしました。「地震当初は学校も臨時休校となり、度重なる余震で不安な毎日だった。今は平靜を取り戻しつつあるのよ良かった。書道ができて本当に嬉しい…」と。胸



が熱くなりました。香川に帰り、早速授業選択者や書道部員にくまモンのクッキーを配りながら、熊本での出来事を話しました。震災後の混乱の中で、多くの先生方や生徒の皆さんが大会の成功に向けて一丸となつて運営にあたっていたと。そもそも大会参加の目的の一つに熊本の現状を知り、少しでも香川の元気を届けたという思いがありましたので、数日間の滞在でしたが、その願いが少し果たせたように感じています。

さて、今回の分科会では、「うどん県。それだけじゃない香川県」を再発見しよう」と地元産品を①「紹介文」②「実用書(半紙)③「ポスター」④「創作(半紙)」



切1/2)と位置づけ、両面からのアプローチの過程や鑑賞会の様子などを発表させていただきました。この単元での取り組みも今年度二度目となり、実施時期や制作内容でも一定の流れができたように思います。しかし、言葉の選定や構成方法では、生徒の意図を十分に反映させられたいは言い難く、また学習評価についても、依然として課題が残ります。

研究協議では、コメントターの先生から、本単元をさらに向上させるためにも、年間指導計画の見直しや他教科・企業との連携、そして文字や書の効用を生活や社会の中で生かす態度を育てる上でも、作品を学校内外で発表することなどが大切だとの意見を頂戴しました。

今年も十一月の下旬に、この単元作品五十八点を図書室や廊下に展示しました。するとまたまた来校した航空関連会社の方がその展示に目を止め、同じような形式で会社の

イベント紹介をして欲しい、同時にこれら生徒作品を高松空港内に展示し、県内外のお客様に県産品に親しむ機会を作らせてもらいたいとの申し出をいただき、何とも嬉しい報告となりました。

最後になりますが、分科会にご参加の先生方からいただいた多くの感想は、私の一生の宝となりました。今後も地域に根差した書道教育の実践に向けて、日々精進して参りたいと思います。本当にありがとうございました。

②「郷土愛を育み、感性を高める書道教育」
〜大漁旗に思いをのせて〜

熊本県立牛深高等学校
講師 織方 愛佳

このたび、全高書研熊本大会の、分科会C「地域に根ざした書道教育」において、「郷土愛を育み、感性を高める書道教育」についての実践を発表させていただきました。全国からお越しいただいた多くの先生方に、御助言と御指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

当日は、会場後方に展示した大旗が私に勇気を与えてくれました。大漁旗の一枚一枚から、生徒一人ひとりが真剣に取り組んでいた姿が思い出



され、この生徒たちの頑張りど熱い思いを全国の先生方知っていただきたいという一念で、実践報告に臨みました。当初、他教科で、地域についての調べ学習を実施した際、注目したのが「大漁旗」でした。地域特有のものに着目することは、生徒にとって地域への理解度が更に深まり、また、卒業後は遠隔地での生活を余儀なくされる生徒たちに、いつまでも生まれ育った故郷を忘れず、誇りに思う気持ちを持ち続けて欲しいという願いから、書道Iの「漢字仮名交じりの書」の単元にこの学習を設定しました。

といます。今年卒業を迎える三年次生四人が作成しています。卒業を迎える今だからこそ「伝えたい思い、伝えられる思い」を自分の言葉で表現しています。オリジナル作品の作成だけに、言葉に拘りを持ち、家族と一緒に案を練り、何度も何度も友人と意見を交換する中で、交わされる言葉一つ一つに、生徒の成長を感じるとともに、私自身の励みにもなっています。

出来上がった作品は、卒業展覧 会で後輩、地域の方に見ていただく予定です。また、先日本校で行われた「第一回総合学科発表会(学習発表会)」において、今回発表した生徒の大漁旗を会場出入口に展示しました。地域の方から「生徒と一緒に作ってみたい」「地域の中で生きる生徒の頑張りがよく表われる取り組みです」との声をいただきました。過疎化が進む中、地域で一生懸命頑張っている生徒の様子を、多くの方に知ってもらうことが、書道教育に携わる私の役目だと信じています。

発表が終わり、勤務する学校まで帰る約三時間の間、発表が決まった日のこと、準備に追われていた時のこと、もがき苦しんだ日々を思い出



い出していました。同時に発表を終えることの安堵感もあり、気が付けば涙が溢れていました。香川県の二宮先生、コメンテーターの木村先生、他多くの先生方に気持ちの面からも支えていただきました。重ねて感謝申し上げます。

全国大会という貴重な機会に感謝し、今回学んだことを今後の書道教育に生かして精進していきたいと思えます。誠にありがとうございました

各部から

研究部

研究部報告

研究部長

大東文化大学第一高等学校

教諭

佐藤

敦子

第四十二回熊本大会の情報交換会において、研究部より次期学習指導要領改訂の方向性やこれからの高等学校芸術科書道のあり方について、すでにその方向性が文部科学省HPで開示されており、作業が進んでいることを述べさせていただきました。また、第二日目の大会講評の際には初等中等教育局教育課程教科調査官、加藤泰弘先生にその内容について資料をもとに具体的に次の内容の説明をいただきました。

- 一、改訂までの経緯と方向性
- 二、学習指導要領の基本的な方向性
 - (一) 子供達の現状と二〇三〇年の社会
 - (二) 学習指導要領の枠組みの改善
 - (三) 何ができるようにするのかー育成を目指す資質・能力
 - (四) どのように学ぶかー主体的・対話的で深い学び
- 三、国語科書写及び芸術科書道の具体的な改訂の方向性

四、高等学校芸術科書道の改訂の方向性

本研究会では、これまで学習指導要領の告示・一部先行実施の時期には全国大会において学習指導要領の改訂の方向性に沿った研究テーマを設定し(熊本大会研究集録23・24ページ参照)、授業研究・分科会などを学習指導要領改訂時期に実施してまいりました。

平成三十年度宮崎大会以降の大会においては、平成二十九年度末に改訂・告示され平成三十一年度より先行実施する改訂学習指導要領に基づいた授業実践例などを報告する予定です。

先行実施期間の授業実践例など各都道府県における先生方の実践授業の報告ができればと考えておりますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

調査部

平成二十九年全国高等学校書道教育に関する実態調査について

調査部長

埼玉県立大宮高等学校

教諭 吉木 佳尋

全高書研熊本大会で発表した内容の一部について、取り

纏めて報告します。
一、学校数に対する書道開講校数の割合について
・全国平均 64.83%

二、書道教諭の持ち時間数について(国公立全日制)
・全国平均 13.1時間

三、書道開講校数に対する教諭の割合について(国公立高等学校)
・全国平均 54.6%

○国公立高校の専任教諭
・専任730名・臨任162名
・再任フルタイム59名
・兼任338名

四、国公立高等学校における書道の開講状況について
・全国平均 26.8%

(一)教育課程の状況について

書道Ⅰのみ開講 32.8%
書道Ⅱまで開講 20.7%
書道Ⅲまで開講 16.4%
書Ⅰ+学校設定科目 5.8%
書Ⅱまで+学校設定科目 12.8%
書Ⅲまで+学校設定科目 10.4%
その他 1.1%

(二)必修と選択の開講状況(全日制)

○この場合の「必修」とは芸術教科内の選択をさし、「選択」とは他教科との選択をさす。

書道Ⅰ

必修168校 選択293校
書道Ⅱ
必修342校 選択853校
書道Ⅲ

必修22校 選択509校
学校設定科目
必修9校 選択570校

五、「学校設定科目」について
延べ開講数 910講座

六、各学校の書道教育の現状について

- ①「単位数の減少」59校
- ②「単位数の増加」36校
- ③「講座数の減少」217校
- ④「講座数の増加」56校
- ⑤「受講者数の減少」320校
- ⑥「受講者数の増加」250校
- ⑦「必修が選択に」9校
- ⑧「選択から必修に」3校
- ⑨「学校設定科目の増設」31校
- ⑩「学校設定科目の削減」16校

七、指導主事について

教育委員会指導主事においては、専任・兼任を合わせ配置されている県はに十七県であった。教育センター指導主事の配置県は五県にとどまった。書道教育の重要性・有用性を説き配置の増加を推進し、より充実した教育活動を展開できるように努力していく必要があると考えられる。

八、教員採用試験状況について

平成二十七年度は教員採用試験実施十七県、平成二十八年度当初に三十三名の採用があった。平成二十八年度は実施十七県、平成二十九年年度当初に二十八名の採用があった。

おわりに

今年度も全国高等学校書道教育に関する実態調査に御協力いただき、ありがとうございます。調査報告書の表紙に書いてあります調査目的及び内容の、今後、教員定数法やその様々な要因を考えると、やはり各学校における教育課程の充実が重要だと考えます。それを私達がお互いに連携と内容を精査しながら協力し合っていくことが大事です。今後も、本調査へご理解とご協力をお願い申し上げます。

事業部

事業部より

事業部長

岡山県立瀬戸高等学校

教諭 研山 勇人

事業部では、平成二十九年の事業計画として、「後援事業の活動支援」と二年前から取り組んでいる「全高書研ホームページの運営」「大会集録のデジタル化作業」をさらに進めていきます。

一、後援事業の活動支援

本会の会則には、事業部の活動として、「会員相互の研修と後援事業の活動支援」と明記されています。二年前から全高書研ホームページも開設されたので、本会后援事業について、随時ホームページで紹介し、活動支援を進めていきます。

二、全高書研ホームページ

本会諸活動の対外的発信と会員相互の書道教育実践の情報共有などを目的として、二年前の九月からホームページを開設しました。活動趣旨・会則・組織・会務報告・会報の公開・後援事業の紹介・全国大会などのお知らせ・NEWS・LINK情報等のページと、研究部・調査部・事業部・渉外部・出版部・庶務部の各部の活動報告のページで構成され、順次情報を更新していきます。

ホームページURL

<http://zenkoushoken.sunbindcloud.jp/>

(または、検索サイトで「全日本高等学校書道教育研究会」で検索)

三、大会集録のデジタル化作業

二年前から大会開催後の集録を、資料整理を目的としてデジタル化に着手してまいります。長野大会以降の集録はPDFデータにして、ホームページ

ジ上に公開しています。今後
も引き続きデータ化を進めて
いく予定です。
また、以前の集録について
は、会員の皆様の御協力を得
ることもありますので、その
時はよろしくお願いいたしま
す。全高書研の最新情報並び
に各会員の研鑽の一助となる
よう、ホームページの更新を
おこなってまいります。ぜひ御
活用ください。

各地区事務局報告

福島県より

福島県立福島北高等学校
教諭 郡司 仁美

【活動概況】

平成二十九年度の福島県の活動
概況の主なものは次の通りです。

- 五月 県高書研理事会
(於、福島東高等学校)
芸術科書道実態調査・報告
県高書研研究大会
(於、喜多方東高等学校)
七月 全国高文祭書道展(宮
城大会)への参加(五
名) 県書研たなばた展
への出品参加
八月 書道生徒実技講習会
(於、福島県青少年会館・
8/7~8/9・二泊三日)
教科指導研究会(於、県
教育センター)

県高等学校総文祭書道展
(於、A O Z・10/27~10/30)
十月 第46回東北書写書道教育
研究会山形大会への参加
(二名)

一月 書道生徒強化錬成会
(於、県青少年会館・1/6
~1/7・一泊二日)
第42回全高書研熊本大会
への参加(三名)

三月 会報10号発行
県書研書きぞめ展への出
品参加
(於、コラッセふくしま・
会期1/5~1/8)

これらの活動の他、平成三十二
年に開催されます全高書研福島
大会へ向け、各組織をたちあげ、
係分担をし、準備をはじめたと
ころです。

会場の選定や研究授業のあり
方など、意見交換をしています。
今年度中には一定の方向性を決
め、来年度の総会で具体的な案
を皆様にお示しできるよう活動
していきたく考えております。
また、昨年度より福島県高等
学校書道教育研究会のホーム
ページを開設しております。本
会の諸活動の対外的発信と、会
員相互の情報や資料共有の目的
です。順次更新しております。
ホームページURL
http://www.fukushina-koshoken.
gr-fks.ed.jp

平成29年度 全日本高等学校書道教育研究会役員一覧

Table with 3 columns: Position (e.g., 顧問, 会長, 副会長), Name, and Affiliation (e.g., 大東文化大学講師, 神戸市教育委員会). Includes sub-sections for 常任理事, 事務局, 監事, and 大会担当役員.

開期日程と会場

◇第1日 11月15日(木) 会場:宮崎市民プラザ

9:30～	10:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:00	13:10～14:10	14:20～16:30	16:30～	18:30～20:30
受付	打ち合わせ 総会	開会式	昼食	情報交換会	授業研究 研究協議	企画展 等鑑賞	教育懇談会

◇第2日 11月16日(金) 会場:宮崎市民プラザ

8:30～	9:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:00	13:10～14:10	14:10～15:00
受付	分科会(研究発表) 研究協議	全体会・閉会式	昼食	講演会	企画展等鑑賞

授業研究・研究協議

授業研究テーマ「生徒の主体的な学びを意識した授業」

- A 『生徒自ら課題を発見し、解決する魅力ある漢字仮名交じりの書』～生徒の自詠の短歌をもとに～
宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校教諭 湯地 和美
- B 『漢字仮名交じりの書 ～自国の文化を見つめる～』
宮崎県立宮崎大宮高等学校教諭 本田 淳也

分科会(研究発表)・研究協議

A 研究テーマ 「漢字仮名交じりの効果的な指導法」

- ①『郷土の歌人 若山牧水の短歌を生かした漢字仮名交じりの書の制作』
宮崎県立延岡高等学校教諭 木佐貫 弘志
- ②『書道 I における漢字仮名交じりの書の授業実践』
大分県立大分舞鶴高等学校・大分商業高等学校兼務教諭 佐藤 睦

B 研究テーマ 「生徒の主体的・協働的学びを引き出す効果的な指導法」

- ①『感性を磨き、書への愛好心を育む書道教育』～直感的鑑賞から分析的鑑賞、そして表現へ～
宮崎県立日南高等学校教諭 南 裕之
- ②『生徒が思考・表現することで理解を深める教科指導法の改善』
熊本県立玉名高等学校教諭 仲原 幸代

(お問い合わせ先) 第43回全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会
運営委員長 宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 湯地 和美
〒885-0033 都城市妻ヶ丘町27街区15号
TEL 0986-23-0223(代表) FAX 0986-24-5884
E-mail kazumi223yuji@yahoo.co.jp

※大会集録集に掲載する誌上研究発表をしていただける方を募集しています。



第43回全日本高等学校書道教育研究会 宮崎大会 ご案内 (第3次案内)

宮崎大会テーマ

『書道教育の可能性を考える』 ～自ら課題を発見し、自ら解決できる生徒の育成～

社会は、グローバル化と情報化が加速度的に進み、先々の予測が困難な状況にあります。そうした変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な力を育むことは、すべての教育活動において急務となってきました。芸術教育においても、生徒が、主体的・対話的で深い学びを身につけるとともに、我が国の文化を理解し、継承しながら、広く異文化を受け入れ、世界中の人々とつながることができる人材へと成長できるような教育実践が求められています。

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決していける人材へと生徒を成長させるために、芸術科書道の授業は、質的転換を求められています。そこで、本県の高등학교教育研究会書道部会では、芸術科書道の学びにおいて、生徒によりよい変容をもたらす可能性や効果がどのくらいあるのかを解明するために、数カ年にわたり授業研究や協議を重ねてきました。

この度、「日本のひなた」である本県において、初めて全日本高等学校書道教育研究会宮崎大会が開催されることになりました。前年度の熊本大会において強く感じられた書道教育に対する熱い思いを継承しながら、私たちも精一杯運営してまいります。全国のみなさまから多くの御指導、御助言を賜りながら、今後の書道教育の可能性について考えを深める大会にできれば幸甚に存じます。

多くの先生方の御参加を心よりお待ちしております。

- | | |
|-------|---|
| 会 期 | 平成 30年11月15日(木)～16日(金) |
| 会 場 | 宮崎市民プラザ 宮崎市橘通西1丁目1番2号 TEL 0985-24-1008 |
| 大会講師 | 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 加藤 泰弘先生(予定) |
| 情報交換会 | 11月15日(木)13:10～14:10 宮崎市民プラザ |
| 大会参加費 | 6,000円 |
| 教育懇談会 | 11月15日(木)18:30～20:30
宮崎観光ホテル 宮崎市松山1-1-1 TEL0985-27-1212
会費 7,000円 |
| 併催展 | 席上揮毫大会上位入賞作品及び宮崎県高校生の授業作品展示 |
| 企画展 | 日高秩父書簡集 11月14日(水)～16日(金)
併催展の作品とともに宮崎市民プラザに展示 |
| 講演会 | 「没後 90 年若山牧水と短歌の魅力」
講師 伊藤一彦先生(若山牧水記念文学館館長) |



第44回全日本高等学校書道教育研究会 岡山大会 ご案内 (第1次案内)

岡山大会テーマ

『SHINKA』

～書教育の新たな展開を目指して～

会期 平成31年11月14日(木)・15日(金)
会場 公立学校共済組合岡山宿泊所 ピュアリティまきび
岡山市北区下石井 2-6-41 TEL 086-232-0511

日程

◇第1日目 11月14日(木)

9:30～	10:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:00	13:10～15:30	15:45～17:00	18:30～20:30
受付	打ち合わせ 総会	開会式	昼食	授業研究 研究協議	情報交換会	教育懇談会

◇第2日目 11月15日(金)

8:30～	9:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:00	13:10～
受付	分科会(研究発表) 研究協議	全体会 閉会式	昼食	・岡山県高校書道展

研究授業 (1)漢字の書
(2)仮名の書
(3)漢字仮名交じりの書
研究発表 (1)(検討中)
(2)(検討中)
(3)(検討中)

大会講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
加藤 泰弘 先生(予定)
情報交換会 11月14日(木) 15:45～17:00 ピュアリティまきび
大会参加費 6,000円(予定)
教育懇談会 11月14日(木) 18:30～20:30 ホテルメルパルク岡山(予定)
岡山市北区桑田町1-13 TEL 086-223-8101
会費7,000円(予定)

全高書研会報八十四号をお届けします。熊本大会長の那須高久校長先生をはじめ、ご多忙極まりない中、ご執筆いただきました先生方には深く感謝申し上げます。

熊本大会は昨年十一月九日から十日にかけて熊本市内で開催されました。一日目の授業研究では「表現と鑑賞の関連を意識した授業研究」をテーマとして二本の授業が実施されました。どちらも余白を意識させる興味深い内容でした。二日目の分科会では三つのテーマに基づきそれぞれ二つずつの研究発表がありました。情熱あふれる内容のものばかりで、私の授業にも大変刺激になると感じました。

大会運営委員長の志垣先生を中心に熊本地震災害をも、ものともしいパワーときめ細やかさ、そして何よりもおもてなしの心を持って誠心誠意ご尽力いただいた大会であったと思います。

二月十日には東京で無事引き継ぎ会も終了し、次の宮崎へ櫛が渡されました。南国九州での大会が続き、内容的にも期待で胸を膨らませていくのは私だけでしょうか。一人でも多くの方々のご参加を心からお祈りしています。

(竹嶋)

編集後記